

【令和6年度 事業報告 重点項目】

令和6年度は、組織理念に基づいて以下の重点目標を設定し、達成に向けた取り組みを行いました。

未達成項目については、令和7年度事業計画に反映し、引き続き、子どもたちにとってより良い組織運営へとつなげてまいり所存です。

Value.1（基本方針）利用者の尊重

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<子どもの権利擁護> ・子どもの権利に対する、職員の意識向上の取り組みを推進	・グループホーム支援員の巡回等により、権利擁護の推進と、支援の標準化を図る。 ・職員会議等で施設職員としてのあるべき姿などを繰り返し伝える。 ・グループ会議内で、子どもの権利に対して職員が話し合える機会を設ける。 ・グループ間や事業所間の交換研修の実施（視野を広げる）。	第三者評価利用者アンケート設問 9:78以上 (2023:76.3% (※1)	GH支援員 ケアワーカー	高

○達成状況：A 達成尺度：目標78%以上 ⇒ 実際：79.5%（2023年度比3.2%アップ）

○実施報告：全職員を対象とした人権チェックを4半期毎に行い、半期毎の職員面談時にも権利擁護についての聞き取りを行い、人権意識の向上を図った。
・施設内虐待防止研修を悉皆で行うことに加え、グループ会議の場でロールプレイ等を行い、一人ひとりの職員が考えられる場をつくった。
・既存の取り組みに加え、幼児・障害のある子ども向けに、権利についての動画視聴と意見表明ツールを活用した権利意識向上の取り組みを行った。
・法人事業所から複数の職員受け入れを行うことや、グループ間での交換研修を行い、視野を広げる機会をつくった。

○理由、課題等：法人の他事業所への研修を行えなかったため、次年度以降の課題としたい。
・引き続き、施設職員全員が子どもの権利に対する高い意識と共通認識を持ち、それぞれの立場で役割を果たしていけるよう努めていきたい。

※1 あなたは、職員があなたの気持ちを聞いてくれて、大切にしながら対応してくれていると思いますか

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<共通スキル・知識の獲得> ・利用者理解・尊重に繋がるスキルの獲得と学びの機会の確保	・ケアワークに関わる全職員がCAREスキルを獲得すると共に、トラウマインフォームドケアの概念やポリバーガル理論についても理解する。 ・自己覚知・自己理解を促す研修の企画・実施。 ・施設内での研修等が（不参加の場合等でも）いつでも確認できるシステムの構築	第三者評価利用者アンケート設問 14:70%以上 (2023:65.8% (※2)	人材育成委員会 管理職	中

○達成状況：C 達成尺度：目標70%以上 ⇒ 実際：56.4%（2023年度比9.4%ダウン）

○実施報告：CARE研修未受講者全員が研修を受講した。トラウマインフォームドケア研修は、全体で2度研修の機会を持ち、共通認識を持てるよう努めた。
・ポリバーガル理論の研修は、未受講者が過去の映像を用いて理解に努めた。
・自己覚知の研修を実施し、全体で自分の状態を理解する意義を学んだ。
・施設内での研修等が（不参加の場合等でも）いつでも確認できる状況を作った。

○理由、課題等：施設内研修の多くはアーカイブ視聴が可能となり、後日の視聴も可能となったが、効果的活用には至っていない。
・多くの研修の機会をつくり、職員の共通スキル・知識の獲得に努めたが、実践につなげたり、応用したりと、組織的に浸透させるような取り組みが十分とはいえなかった。
・評価尺度である不満や要望への対応の点では、中学生のスマホ所持に対する要望が複数挙がっている。安全を守りながら正しく利用できる方策を講じてきたい。

※2 あなたが困ったことや嫌だと感じたこと、要望や希望を伝えたとき、職員は、きちんと対応してくれていると思いますか

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<ICT化とセキュリティ> ・ICT化の推進とセキュリティ向上のための取組を行う	・ICT化の推進とセキュリティ向上のためにプロジェクト化し、必要な検討を行う。 ・上記プロジェクト内で、職員への研修、子ども向けの教育の機会を検討し、実行に向けて準備をする。 ・セキュリティ向上のためのガイドラインを作成する。	取組計画の実行の有無	プロジェクト リスクマネジメント委員会 自立支援担当職員 管理職	低

○達成状況：B

○実施報告：プロジェクト内で中学生のスマホ所持に関する検討を重ねた。その中でセキュリティについても話合った。

・検討事項が多く、研修・教育の機会の提供までは至らなかった。ガイドラインも同様。

○理由、課題等：担当者が多岐にわたり、誰がどこまでを担うのかが曖昧になってしまい、それぞれが一步引いてしまうような状況があったことが反省点。
・次年度は中学生のスマホ所持も想定していることから、セキュリティの向上や、子ども教育の機会をつくっていく必要がある。



わたしらしさ、あなたらしさを大切に

Value.2（基本方針） 自立支援

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<生い立ちの整理> ・施設内における生い立ちの整理のあり方の検討	・自立支援委員会やプロジェクト内で生い立ちの整理について検討を行い、（個別対応を基本としつつも）施設内の標準的な生い立ちの整理のあり方を検討し、まとめる。	取組計画の実行の有無	自立支援委員会 プロジェクト ケアワーカー	高
○達成状況：B ○実施報告：委員会内で生い立ちの整理に関する研修を複数人で受講した。 ・研修受講者を中心に、委員会内で標準的な生い立ちの整理のあり方を検討したが、整理するまでには至っていない。 ○理由、課題等：一昨年から重点項目であるが、特定の職員の理解がある程度促進されるのみで、施設全体の共通理解にはつながらず現状がある。何をどうすればよいのかが不明瞭であることや、時間的な制約によりまとめることはできなかった。子どもが自分らしく生きていくためにも重要な取り組みであることに変わりはないので、引き続き取り組んでいきたい。				
<性教育> ・性に対する職員の意識の向上	・施設内の標準的な性教育のあり方を検討し、養育ハンドブックに反映する。 ・各グループの事例を共有できる場を委員会内や会議内で持つ。	養育ハンドブックへの反映を通して、組織の学びとしているか	暮らしと性の委員会 プロジェクト ケアワーカー 看護師	中
○達成状況：B ○実施報告：暮らしと性の委員会内で検討を行ったが、ハンドブックに落とし込めるような状況には至らず。 ・委員会や会議で事例のシェアを行なうことや、行事場面で性的に留意する事項をシェアすることは当たり前になりつつある。 ○理由、課題等：包括的性教育の理解を組織全体で推進し、施設なりの基準を設ける等のわかりやすい指標が必要。				
目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<退所者支援> ・退所者への情報発信の強化・繋がりへの機会の確保	・委員会やプロジェクト内で、公式LINEを活用した情報発信のあり方を検討し、有効利用する。	退所者にとって繋がりやすく、また有益な情報等が配信される	自立支援担当職員 自立支援委員会 プロジェクト	低
○達成状況：B ○実施報告：委員会内での検討を行い、公式LINE登録を完了した。年度内に卒園生に対して周知を行う予定。 ○理由、課題等：委員会内での検討課題が多いために、公式LINE作成が後回しとなり、進みが遅くなってしまった。				

Value.3（基本方針） 安心・安全な生活

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<「共に」の精神を> ・共生会の「共に生きる」精神を改めて問い直し、あたたかな雰囲気づくり、楽しい雰囲気づくりに努める	・些細な場面でも子どもたちと共に過ごせる時間を大切にする。 ・各グループにおいても、季節の行事やイベント等、子どもたちの意見を聞きながら積極的に実行する。 ・声掛けの工夫や引き出しを増やせるような研修等を企画する。	取組計画の実行の有無	ケアワーカー 栄養士 GH支援員 人材育成委員会	高
○達成状況：B ○実施報告：何気ない日常において、子どもと一緒に時間を過ごすことを大切にしようとする意識が少しずつ高まった。 ・行事においても、クリスマス会等は子どもが主体となって企画したり動いてくれた。その他の行事の一部も、子どもの意見を反映できた。 ・グループ会議の場面では、子どもたちの意見や気持ちが大切に扱われるよう、ロールプレイ等を定期的に行った。 ○理由、課題等：子どもたちと共にいる時間を増やせば業務が後回しとなり、超勤につながるケースも間々見られる。業務負担の軽減や効率化を図りながら、チームでどのように役割分担していくのか等、工夫が必要。				
目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<災害対策・事故対策> ・安全計画の運用とBCPのアップグレード	・2023年度に作成した安全計画が形式的なものにならないよう、職員への周知を含めて計画通り運用する。 ・BCPについては主要メンバーにて机上訓練を行い、実態に即したBCPへとアップグレードする。	取組計画の実行の有無	防災委員会 リスクマネジメント 委員会 管理職	中
○達成状況：A ○実施報告：全職員が子ども家庭庁「安全管理マニュアル研修」の動画を視聴した。 ・児童の飛び出し、行方不明の対応マニュアルを各グループで読み合わせ、再確認を行った。 ・自転車事故について、職員への注意喚起を行い、児童に安全運転に関する動画を視聴してもらった。 ・法人の防災アドバイザーに施設を視察していただき、BCP運用の相談を行った。 ・災害に関する研修（現地＋動画視聴）を受講し、職員全体の防災意識の向上を図った。 ・管理職、防災委員で机上訓練を実施し、災害時の緊急連絡ツールの導入に向けて進行している。 ・補助金を活用し、可搬型蓄電池の購入。 ○理由、課題等：安全計画に準じ、職員、児童への啓発活動、学習の機会を持った。 ・さらなるヒヤリハット報告の分析、事故対策。 ・実践的な訓練の実施。				



わたしらしさ、あなたらしさを大切に

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<災害対策・事故対策> ・安全計画の運用とBCPのアップグレード	・2023年度に作成した安全計画が形式的なものにならないよう、職員への周知を含めて計画通り運用する。 ・BCPについては主要メンバーにて机上訓練を行い、実態に即したBCPへとアップグレードする。	取組計画の実行の有無	防災委員会 リスクマネジメント委員会 管理職	中
○達成状況：A ○実施報告：全職員が子ども家庭庁「安全管理マニュアル研修」の動画を視聴した。 ・児童の飛び出し、行方不明の対応マニュアルを各グループで読み合わせ、再確認を行った。 ・自転車事故について、職員への注意喚起を行い、児童に安全運転に関する動画を視聴してもらった。 ・法人の防災アドバイザーに施設を視察していただき、BCP運用の相談を行った。 ・災害に関する研修（現地＋動画視聴）を受講し、職員全体の防災意識の向上を図った。 ・管理職、防災委員で机上訓練を実施し、災害時の緊急連絡ソールの導入に向けて進行している。 ・補助金を活用し、可搬型蓄電池の購入。 ○理由、課題等：安全計画に準じ、職員、児童への啓発活動、学習の機会を持った。 ・さらなるヒヤリハット報告の分析、事故対策。 ・実践的な訓練の実施。				

Value.4（基本方針）人材育成

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<業務の見直し> ・業務の効率化・生産性の向上を図り、業務量の軽減につなげる	・業務見直しのためのプロジェクトを組織化する。 ・意識改革も要すことから、リーダー会議を中心に、適宜、意見交換を行う。 ・電話の自動音声システムの導入を検討。	現状を検証し、年度内に業務量軽減のための提案をする。加えて、次年度に向けた具体的な取組計画を立案する。	プロジェクト管理職 リーダー職員	高
○達成状況：B ○実施報告：電話の自動応答システムを導入し、運用中。営業の電話や転送作業等がなくなり、業務改善につながった。 ・職員面談や会議等を通して業務状況の把握に努め、適宜助言等を行った。 ・目先の業務に追われ、業務改善のプロジェクトの立ち上げまには至らなかった。 ○理由、課題等：業務の洗い出しと分析を行い、削減・効率化を図れる業務がないかを確認していく必要がある。 ・意識改革についてはグループ間の格差もではめているため、組織全体での意思疎通を図る必要がある。				

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<人材確保> ・全グループ6名体制の実現に向けた採用活動の展開	・実習生に対するプログラム検討を行う。 ・実習終了後のアルバイト雇用（もしくはボランティア）の体制整備。 ・養成校等との連携強化のため、近隣大学への訪問活動を行う。 ・求職者向けパンフレットの作成や動画の活用等、求職者向けの発信力の強化。	全グループ6名体制の実現（2025年度体制）	採用担当者 管理職 実習指導担当者 広報委員会	中
○達成状況：A ○実施報告：実習指導担当者養成研修に新たに2名を派遣し、指導者を増員した。 ・実習指導者を中心に実習プログラムの検討チームをつくり、検討を行った。 ・養成校等との連携強化のため、近隣大学の報告会に参加したり、学生の受け入れ等も積極的に行った。 ・プロジェクト内で求職者向けパンフレットを完成させ、2025年度より強力なツールとして活用できる見込みが立ち、動画作成の検討もはじめた。 ・求職者向けのイベントも毎月開催し、各大学にも事前に求人票やチラシ等を発送することができた。 ○理由、課題等：児童養護施設職員養成講座と採用説明会には優に100名を超える方が参加した。 ・採用エントリー者も40名を超え、求める人材を確保することができた。				

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<キャリアパスの効果的運用> ・2024年度より、新たに作成した組織理念に基づいたキャリアパスの運用を開始し、浸透を図る	・年度初めの全体周知 ・個人研修計画への活用 ・施設長面談（年2回）時の活用 ・養育面でバックアップの要となるGH支援員の役割の明確化とSVの実施	第三者評価機関職員アンケート設問5-1-2-1②:75%以上（2023:62.9%）（※1）	管理職	低
○達成状況：B（評価尺度の結果：74.2% ※11.3%向上） ○実施報告：年度初めの職員会議時にキャリアパスについての全体説明を行った。 ・職員面談時や研修計画に活用した。 ・GH支援員等を養育チーフに任命し、毎月養育チーフ会議を行うことで、管理職と養育チーフ間、及び養育チーフ間の認識の共有や連携、方針を決めることにつながった。 ○理由、課題等：キャリアパスについての全体説明を行ったが、項目も多く、理解・利用のしやすさという観点での改善や説明が必要。				

※1 私には、キャリアパスを理解できている



わたしらしさ、あなたらしさを大切に

Value.5（基本方針）信頼される組織運営

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<広報力の強化> ・信頼と協力を得るための情報発信を積極的に行う	・既存の広報基準の見直しと、効果的な配信方法・内容の検討。 ・法人で共催実施している「葛飾区子育てフェスタ」にて、法人の取り組みを広く周知できるよう働きかける。 ・支援者コミュニケーションについて、具体的なガイドラインを作成し、運用する。	取組計画の実行の有無	広報委員会 広報担当者 ホームスタート担当者 管理職	高
◎達成状況：B ○実施報告：年度当初の広報委員会の中ですべきことの整理と、役割分担を行い、広報力の強化を図った。 ・かつしか子ども子育てフェスタではホームスタートブースに加え、共生会ブースを新たに設置し、来場者への周知に努めた。 ・支援者コミュニケーションについては、月々の礼状に加え、年間を通した感謝状や広報紙の作成・送付等、丁寧に行ったが、ガイドラインの作成までは至らなかった。 ○理由、課題等：専任の業務となりがちなので、特定の職員に負荷がかかりすぎないよう業務の見える化や引き継いでいく工夫等が必要。				
<苦情の公表> ・苦情の公表のあり方を検討し、2025年度より公表する準備を整える	・2024年度中に公表の枠組みを作り、職員、及び苦情解決委員の合意を得ながら2025年度に公表する準備を整える。	取組計画の実行の有無	苦情解決窓口担当者 管理職	中
◎達成状況：A ○実施報告：苦情解決委員との懇談会を3回実施し、苦情の取り扱いや公表のあり方について検討を行い、2024年度分の公表を2025年度に行う見込み。 ○理由、課題等：毎年度、苦情解決委員との懇談会での承認を得ながら集計と公表を行っていきけるよう準備をしていきたい。				

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<社会に開かれた組織運営> ・社会に開かれた組織運営を行い、情報を公表する	・見学希望者や実習生等を積極的に受け入れ、児童養護施設の実態を正しく理解してもらう。 ・近隣住民等を対象として、児童養護施設を知ってもらうイベント等を企画する。	取組計画の実行の有無	プロジェクト 広報委員会 管理職	低
◎達成状況：A ○実施報告：実習生や見学者、実地研修等は引き続き積極的に受け入れを行った。 ・地域向けに施設を知ってもらうような取り組みはできなかったが、既存のSNS等を利用した広報活動に加え、かつしか子ども子育てフェスタでは新たに共生会のブースを設置して周知活動に努めた。 ・例年になく多くの方々に希望の家について知っていただく機会をつくり、公益活動の利用やご支援、求職等にもつながったと思われる。 ○理由、課題等：必要なことである一方で、人的なりソースをどれだけ割けるかが課題である。				

Value.6（基本方針）地域との連携

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<ショートステイ受入強化> ・ショートステイ最大受け入れ人数の増員に伴う体制強化	・職員を増員し、6名体制（5名+0.5名+0.5名）とする。 ・ハード面の拡張工事をする（現医務静養室をショート居室に）。 ・業務の見直しと効率化を図る。 ・将来的にはショートステイ事業実施場所変更の可能性を検討（本体施設外）。	・計画内容の実行有無 ・ショートステイ利用者の増加	ショート担当職員 管理職	高
◎達成状況：A ○実施報告：職員を増員し、6名体制以上の体制となった。 ・ハード面の拡張工事が完了し、居室を一つ増やした。 ・場所の検討には至らなかった。 ○理由、課題等：職員を増員し、ハード面の拡張工事も完了したが、ショートステイの1名利用定員増とトワイライト利用者の急増により、マンパワーの問題、場所の問題が浮き彫りとなった。 ・利用者の安心・安全を守るためにも、体制のさらなる検討・配置と、区側への働きかけが必要な状況。				
目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<ホームスタートの取組推進> ・ホームスタート事業が必要な人に届くよう、広報力を強化して利用に繋げる	・事業周知のため、関係機関や団体への説明を積極的に行う。 ・SNSを利用し、ホームスタート事業の発信を開始する。 ・「親子ふれあいサロンきぼう」の取り組みについては公式LINEも活用して利用のしやすさに繋げる。 ・よりわかりやすく、手に取りやすいチラシを新たに作成する。	・ホームスタート事業の年間利用が70家庭以上。 ・関係機関や団体への説明が10件以上行う。	ホームスタート担当 職員	中
○達成状況：B 55件（新規派遣世帯数38件、継続17件） 関係団体への説明は適宜行ったが、個別の相談に応じたものであった。 ○実施報告：区内イベント（子ども子育てフェスタかつしか）への参加を通じて事業紹介に努めた。 ・各関係機関や団体への説明の機会は得られなかったが、個別での説明は適宜実施した。 ・SNSではイベント案内のみの投稿となり、詳細な活動内容等は未発信。公式LINE運用やチラシ作成についても未実施。 ○理由、課題等：具体的な取り組み計画が立てられず、SNSについても、運用に関する枠組み作りができなかった。				



わたしらしさ、あなたらしさを大切に

目標内容	取組計画	評価尺度	担当者	優先度
<地域支援の新たな展開> ・地域のニーズに合致した新たな地域貢献の取り組みを検討	・地域支援の一つとして、社会的養護自立支援拠点事業の実施の可能性を探るため、実施団体の会合等にも参加し、現状を把握するとともに連携を深める。 ・葛飾区との連携を強化し、地域に求められる地域支援の可能性を把握する。	・社会的養護自立支援拠点事業実施団体との会合への参加 ・ニーズ把握と地域の子育てサービスへの貢献	施設長 自立支援担当職員	低
○達成状況：B ○実施報告：区の会議（社会的養育推進委員会、子ども若者会議、要保護児童対策協議会、子ども子育て支援委員会）の委員として積極的に関与し、発信と情報把握に努めた。 ・関東社会的養護自立支援拠点事業連合会にオブザーバーとして参加させてもらい、拠点事業の実態把握に努め、実施可能性について吟味した ○理由、課題等：新たに地域支援を行なうためには予算に加え、場所となり手の課題がある。なり手の確保と育成なしには実現ができないため、更に力をいれる必要あり。				

重点目標の達成状況一覧

優先度	目標数	評価ランク			
		A	B	C	D
高	6	2	4		
中	6	3	2	1	
低	6	2	4		
総数	18	7	10	1	



わたしらしさ、あなたらしさを大切に